

盛岡青松支援学校

研究テーマ

「病弱虚弱特別支援学校における発達障がいと様々な困難を抱える児童生徒への指導・支援の在り方を探る～具体的指導・支援方法を通して～」
(2年次研究2年目)

1 全体研究

(1) 研究テーマ設定の理由

本校の児童生徒は、発達障がい、愛着障がい、不登校、また医療を最優先とする児童生徒が在籍している。その中でも、発達障がいと精神科的併存症(不安症、適応障がい、PTSD、統合失調症等)を有し、学力低下、不登校、ひきこもり、自尊心の低下、虐待等の心理社会的な問題を抱える児童生徒が多い。そこで、発達障がいとそれに伴う様々な問題について理解し、具体的な支援方法について研修、実践をすることが、児童生徒一人一人の目指す姿を実現することにつながると考え、本テーマを設定した。昨年度は5グループ、今年度は4グループに分かれて、研修に励む。

(2) 各グループについて

ア「支援方法」グループ

内容：1年次ティーチャーズトレーニングについて研修したⅠグループと、提案・交渉型アプローチについて研修したⅡグループを一つにし、それぞれについてさらに研修を深める。また一人一人の実践について事例検討会を実施し互いの実践から学ぶ。

イ「ICT活用」グループ

内容：発達障がい等の児童生徒に有効なICTの活用の仕方について授業実践、検討会を行い、具体的な支援方法について明らかにする。互いに行っている授業実践について、情報を整理する。研修会を通してICT機器の使用法や活用について見聞を広める。さらに外部講師から指導・助言をいただき、研修を深める。

ウ「関係機関との連携Ⅰ」グループ

内容：せいわ病院等の関係する機関での支援内容や方法を知り、本校の児童生徒に適した対応について探る。また支援会議を開催する際に必要な関係機関や、支援会議の内容について整理し、本校の児童生徒の実態に合った支援会議の在り方について研究する。

エ「関係機関との連携Ⅱ(岩手医大訪問教育部)」グループ

内容：病棟掲示用ポスターを完成させて院内に掲示していただけるよう、また病院のWebサイトに義務教育を受ける場があることを紹介していただけるよう、働きかける。他病院の実践から、退院直前の復学支援の持ち方、復学後の適応状況に応じたアフターケアの在り方を検討する。また児童・生徒の主治医と小児科病棟看護師長から、児童生徒とその保護者への支援の在り方について、教育に期待することはどんなことかを講演いただき、研修を深める。

(3) グループ研究会

年間9回を基本にしなが、各グループの推進状況により、回数を調整しながら実施した。

(4) 全体研究会

4グループそれぞれが研究した内容について、全体場で共有する。所属していないグループの研究内容についても研修し、今後の指導・支援に活かす。

2 講演会

演題：「発達障がいのある子どもの二次障がい予防を考える～叱らないけど、譲らない 提案・交渉型アプローチの紹介とその効用～」

講師：和歌山大学 教授 武田 鉄郎 氏

期日：令和元年8月7日(水)

参加者：119名

※岩手県病弱・虚弱教育研究大会の講演と合わせて実施。

3 研修会

今年度は、全体での研修会を1回実施した。

演題：「愛着障がいの理解と対応」

講師：宮城教育大学 教授 植木田 潤氏

期日：令和元年12月26日(木)